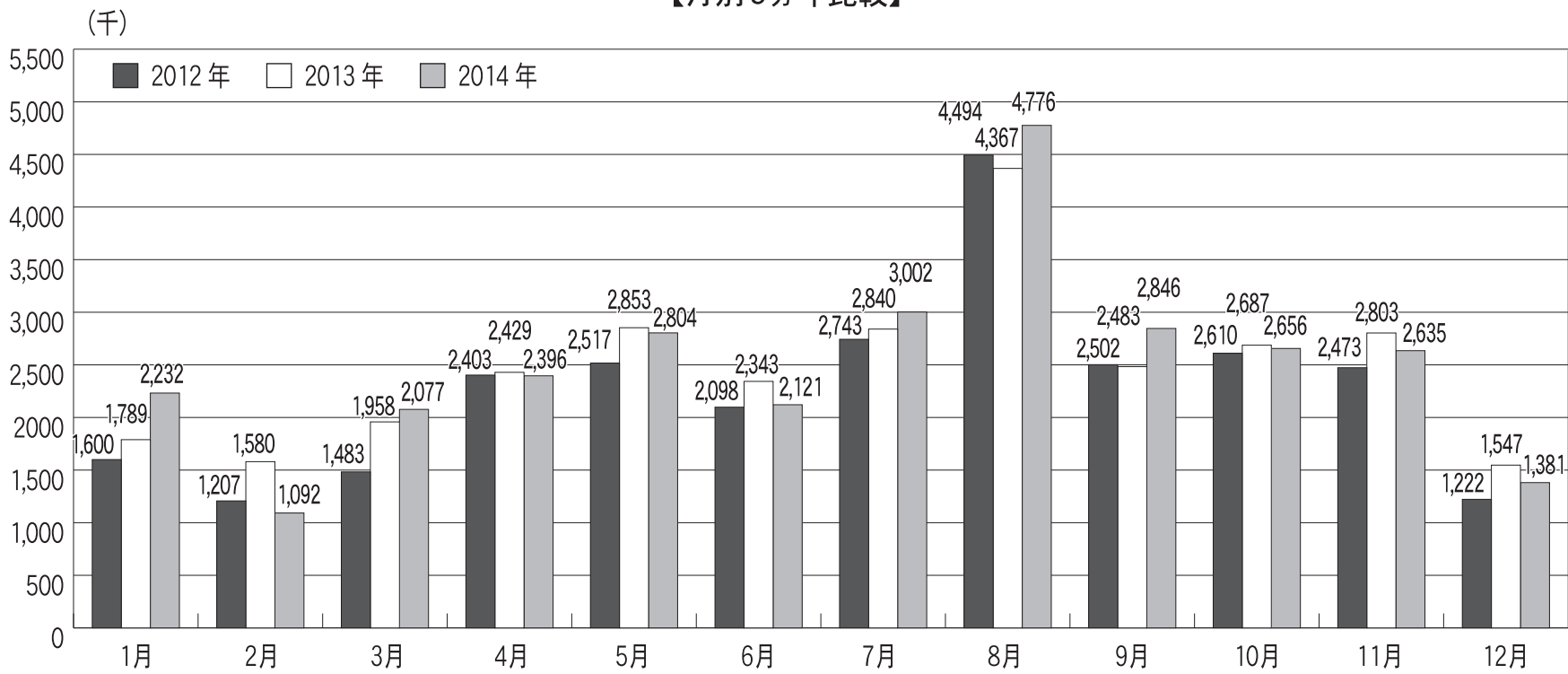


前年比1.1%増の3002万人

2014年山梨県観光入込客統計調査

【月別3ヵ年比較】

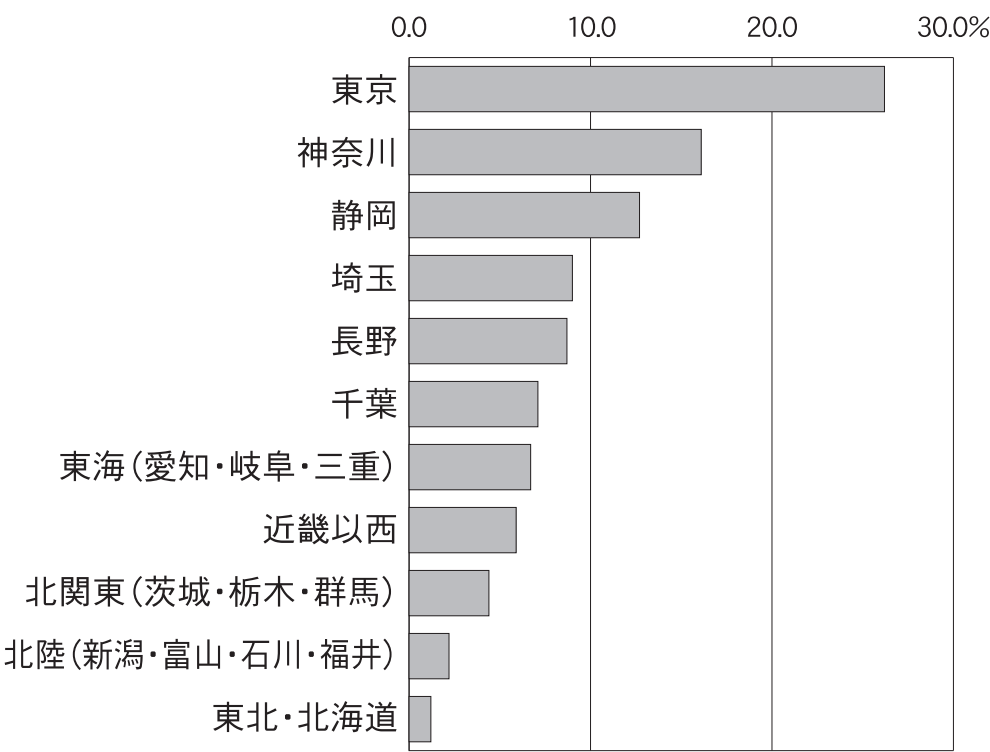


【月別の傾向】

- ・1月、3月は富士山の世界文化遺産登録による増加傾向が継続しており、特に富士・東部圏域の富士山周辺地域での増加が顕著であった。2月は観測史上最高の豪雪で対前年比30.9%減少したが、3月には対前年比で増加に転じ回復した
- ・4～6月は消費増税、ガソリン価格の高騰、休日特別割引など高速道路のETC割引が一部終了した影響や、前年に富士山の世界遺産登録で大幅に増加した反動があり、県内全域で減少した
- ・7～9月は、県内全域で各月とも増加。昨年の猛暑、残暑から好天気であったこと、7月末から8月にかけて実施された全国高等学校総合大会で県内が競技会場になったこと、NHK連続テレビ小説「花子とアン」による注目度の上昇などが要因とみられる
- ・10～12月は各月で減少。10月に襲来した台風18号および19号、12月には気温が低いまま推移するなど、天候の影響があったとみられる

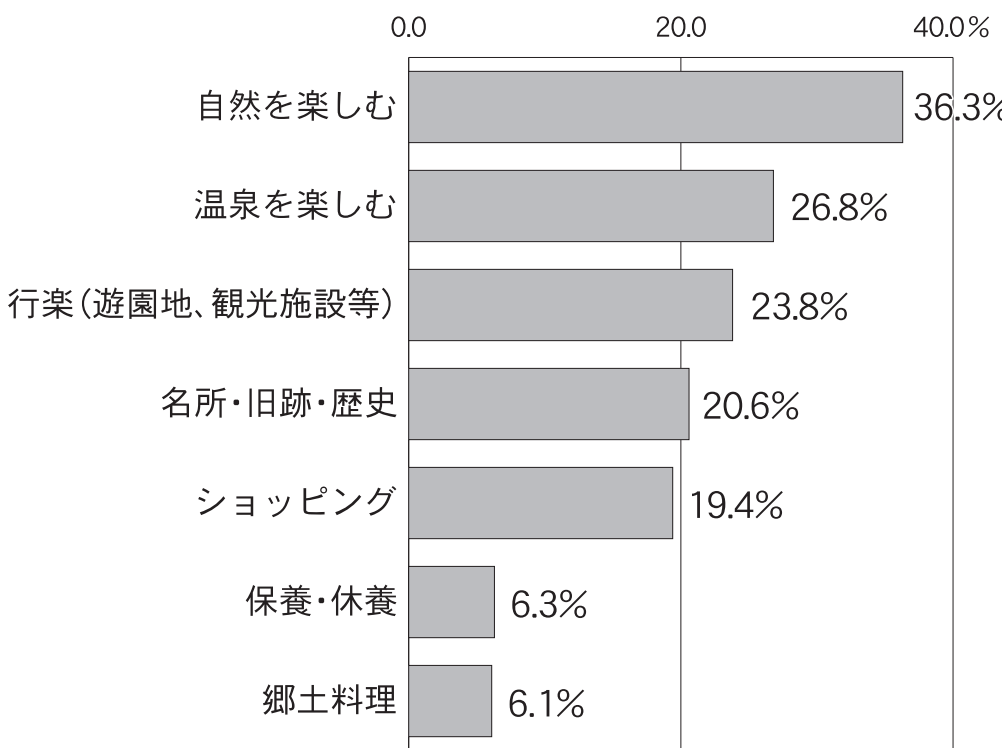
【県外観光客の居住地】

本県から近い距離の都県が大半を占めており、隣接都県からの来訪者は72.7%を占める

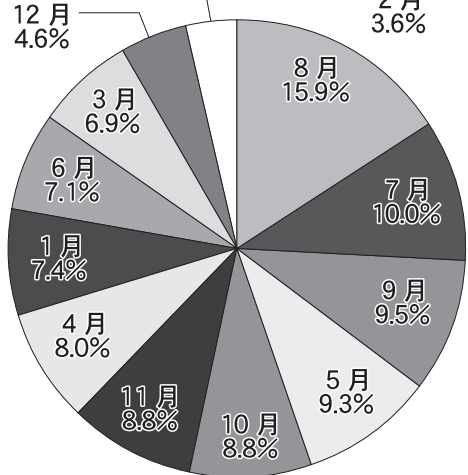


【県外観光客の旅行目的(複数回答)】

昨年に引き続き、自然や温泉を楽しむ目的での来県者が多い

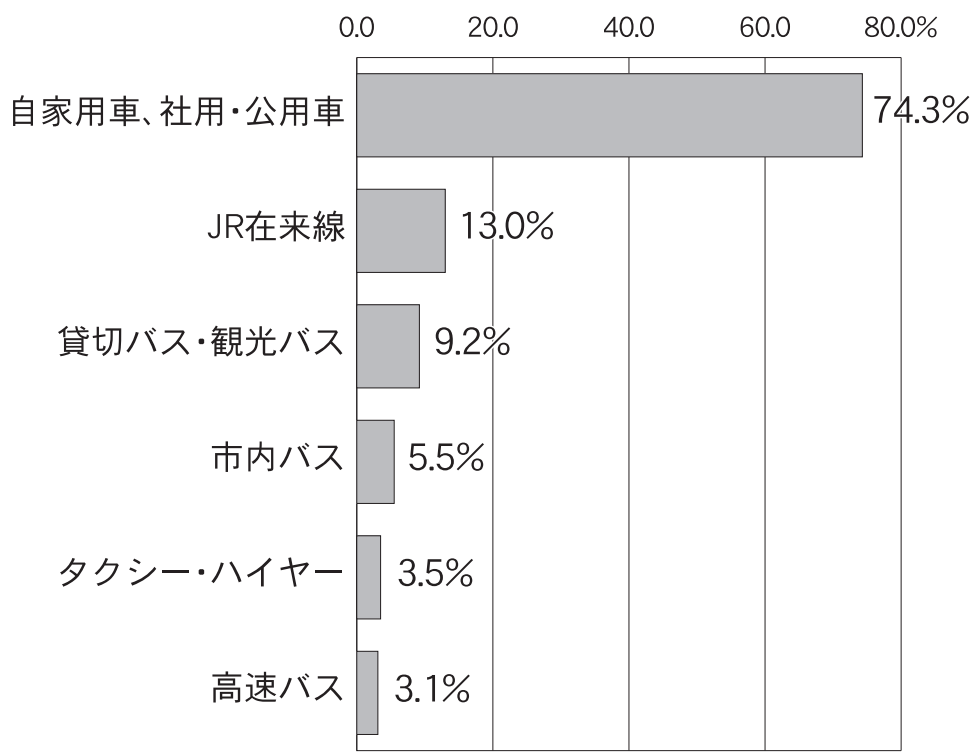


【月別構成比】



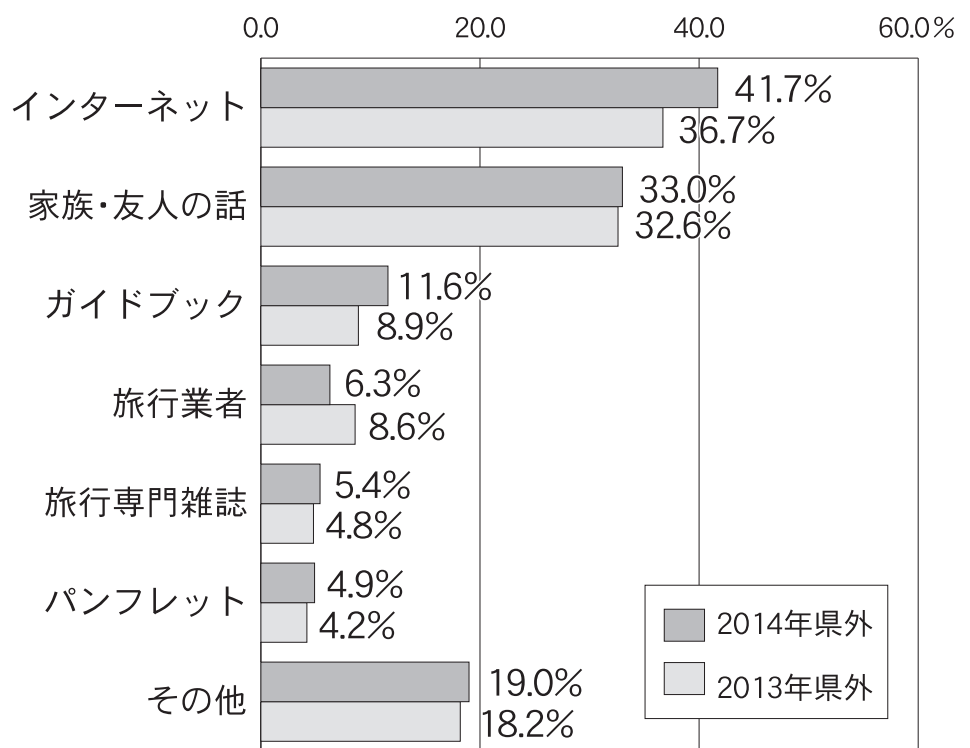
【県外観光客の交通手段(複数回答)】

車を利用した来県者が圧倒的に多く、次いでJR在来線の利用が多い



【旅行計画の参考資料(複数回答)】

インターネットでの情報や普段身近に接する人からの情報を旅行の参考とする来県者が多い



山梨県は5月28日、2014年観光入込客統計調査結果を発表した。入込客数は3001万7千人(前年比1.1%増)だった。内訳は、日帰り客が262万4千人(同2.3%減)、宿泊客が739万3千人(13.4%増)。また、県外客は273万2千人(同2.8%増)、県内客は28万5千人(同3.6%減)だった。外国人延べ宿泊者数は94万2千人(同91.3%増)。

観光消費額は、4460億円(同22.4%)、1人あたりの平均観光消費額は1万4888円(同21.1%)だった。調査方法は、観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に基づいて行い、入込客数調査は398地点(施設など305地点、行楽事・イベント93)、宿泊客数調査は1314施設、観光客への対面アンケートなどとなっている。

観光消費額は22%増の4460億円に